

### 1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2092600036		
法人名	有限会社 幸楽		
事業所名	グループホーム幸楽		
所在地	長野県木曾郡木曾町日義4905		
自己評価作成日	平成 22 年 10 月 4 日	評価結果市町村受理日	平成23年1月20日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

<p>当事業所は木曾町の木曾駒高原別荘地帯の一角に在し、御岳山や木曾駒ヶ岳を一望できる自然環境の中四季の移り変わりに合わせ明るくたくましく元気にご利用者のニーズに沿った共同生活の支援をさせて頂いております。 生活の中でサービスの質の向上に向け、地域との交流や社会生活拡大に努め、ご利用者様の機能低下を防ぎ和やかな家族的共同生活を送っています。</p>
---

事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaiogosip/infomationPublic.do?JCD=2092600036&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaiogosip/infomationPublic.do?JCD=2092600036&amp;SCD=320</a>
----------	---

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

<p>このグループホームで過ごしているうちに、入所前よりも症状が改善に向かっている利用者が何名もいた。訪問当日の午前、利用者と一緒に昼食の材料の下ごしらえをし、簡単な体操をしたり、歌集を開いて歌ったりして楽しく活動した。そのとき耳の遠い利用者や体調のすぐれない利用者がいたが、ほとんどの利用者がその人なりに元気な声を出して、明るく活動していた。また、昼食では量の多少や刻み食などの違いはあったが食べ残しがほとんどなく、おいしく会食できた。午後には、利用者がテーブルボールのゲームに歓声を上げていたのが聞こえてきた。共同生活を通して手足・体を動かしたり、口を大きく開けたりして活動する自然な取り組みが工夫され、効果が上がっていることを実感した。その後、外国籍の職員の話聞く機会があった。利用者本位のケアを身をもって実践しているとはっきり言い切る態度から、職員の意気込みを受け取ることができた。このような取り組みをしているこのグループホームに、さらに期待が高まっている。</p>
---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	非営利法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307 - 5
訪問調査日	平成22年11月15日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名( 1F )		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (11,12)	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない			

ユニット名( 2F )		取り組みの成果		取り組みの成果	
項目		項目		項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (11,12)	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し全職員に配布。会議、検討会等で常に共有し各自、意思の統一を図っている。	昨年度の外部評価の結果を受け、地域との関係性を盛り込んだ理念を付け加え、4つ目の柱とし、外国籍の職員を含め全職員が会議を通して共有し、実践につなげようとしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日頃の挨拶や回覧や広報の伝達、地域のリサイクル、清掃等に参加している。	自治会に加入し、隣組とのつきあいを続けている。また小学校児童との交流や中学校生徒の職場体験受け入れを多くしたり、地域のボランティアとのつながりを多くしたりして、交流をさらに広げようとしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解浸透のため、ご家族様方や学識経験者と交流、意見を求めたり会話の中で共有・理解を求める。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議の中で、改善すべき事項は検討しながら受け入れ、報告も怠ることなく、サービスの向上の為アドバイスを受ける。	2か月に1回、定期的に運営推進会議を開き、市町村の担当者以外に、消防署などの参加を得て、その時その時に合った話し合いを行い、成果を上げている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に介護保険認定更新や事実確認等市町村、広域連合から調査や対応がスムーズにでき、サービス向上の為協力関係が連携できる。	通常の介護保険更新事務以外で、地域医療や同業者等の情報についても連絡しながら連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様が常に安全にゆったりと束縛の無い生活行動ができる様見守り、声かけで安全を確保し鍵は開放している。	パンフレットに「身体拘束等の排除の理念及び方針」を掲げ、グループホーム全職員で共有し、会議などで研修したりして利用者本位のケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ともすると過剰なスキンシップと勘違いされる行動が見られるが、みんなで注意しあい意識改革に努めている。言葉の虐待等に注意している。		

グループホーム 幸楽1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修は受講し把握できているが、実践に結びつくケースは無い。必要あれば支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御利用者さま、御家族様の不安や疑問点をしっかり把握し再度にわたり納得できるよう対応し、わかりやすく説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	どんな細かいことでも意見、要望として取り入れ、安心して利用して頂けるよう協力を得ている。	家族会はまだできていないが、運営推進会議に利用者の家族代表が出席し、話し合いに意見を出していただいている。	利用者調査にも家族の意見や要望が出されているから、いろいろな方法やさまざまな機会を通して、運営に反映できるような仕組みを作りたい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に希望事項やアドバイス等を受け入れ連携を密にし提案等は前向きに出して頂く。	月1回、職員会議で職員が意見などが出やすいように普段のコミュニケーションを大切にしている。職員は管理者を通じて代表者に伝える仕組みもできている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に社長と連携をとり報告、連絡、相談をし、職員の向上心を尊重し介護の質の向上に向け反映できるよう整備していく。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員の指導を先輩が育成できる様検討会、研修を行い働きながらトレーニングしていく。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で関係者とお会いする事が多く又地域でも顔を合わす事が多く常に交流できる為、ネットワークづくりの中でサービスの向上にむける取り組みができる。又研修会等の場でお互いの活動の取り組みをサービス向上に生かしていくことができる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用者様と個別に尊厳をもって傾聴、受容、共感をもって信頼関係を保ち安心できる信頼関係作りを実践している		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の方が何を、今、どうしたらいいのが希望を聞き、安心して御利用者様、事業所と良い関係作りができるように気づきを大切にしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御利用者様、御家族様の話をしっかり聞き希望に添える様、出来ないこと・できることを見極め状況に合わせ支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様の気持ちを尊重し、共有できる環境の中で共に生活し常に同じステージでの環境作り、関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に御利用者様を中心に連携をとりながら個々の御家族様に御利用者様との絆が保てるよう支援していく。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者様の入所前のケアマネージャーさんや友人、知人等の面会者と支障の無い限り連携を取りながら関係を継続していく。	お盆や正月には自宅に帰ったり、親戚が面会に来たり、家族と一緒に外食したりして、利用者にこれまでの関係が続くよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつもホールでテーブルを囲み、和気あいきの和やかな環境の中でお互いに談話、レク等できること、出来ないことをフォローしあいながら関わりを持っている。		

グループホーム 幸楽1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所された御家族様方へ声かけや見守りを必要に応じて行っている。各関係事業所とも連携をしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしいゆったりとした安全な生活ができるよう個性を尊重し臨機応変に対応している。	利用者との普段の生活・会話などや個票・ケア日誌の記録などから、利用者一人ひとりの希望、意向をできるだけ把握し、対応できるように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活やアセスメントの中から昔の思い出話の中から、生活環境を把握し個々の御利用者様がなじみの生活が送れるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活をしっかり支援し一日の暮らしの中でも変化の気づきを大切に安全に安心できるゆったりとした生活の維持を把握していく。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的や必要時カンファレンスを行い御家族様の面会時や電話等、又緊急時の連携等で利用者様がより良い生活の維持ができるよう計画を作成している。	関係者との話し合い通して、個別支援計画を基に日課サービス計画表を作り、きめ細かなケアに取り組んでいる。そして、介護支援経過をまとめたモニタリング実践票によって現状に即した見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	御利用者様の日頃の生活の様子を、ケアを実践しつつ記録をしっかり記入し、計画の見直しや職員間の情報共有に役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化は今後の課題であるが今は柔軟な支援でターミナル化も考えていく。		

グループホーム 幸楽1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働は前向きに検討している。近隣、地域の役員さんとの連携がとれる。地域の方に野菜を頂いたり心の豊かさが維持できる。ボランティアさんも定期的に訪れ交流して下さる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協定を結んでいる地域の診療所の医師に月2回往診して頂き利用者様の体調管理や異常の早期発見、内服薬の処方、体調異変時の受診連携の支援を行っている。	地域の診療所と連携して利用者の受診を支援している。歯科医の受診や、緊急時の受診においても適切な支援を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が実際には日常生活の関わりの中で介護職員と協働し連携を密にして適切な医療や看護が受けられるよう努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する場合はかかりつけ医の紹介もあり病院関係者との情報交換や相談で利用者様が安心して療養できる様連携を密にし関係作りをしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢でレベル機能低下、意識状態の変化のある場合は御利用者様、御家族様と連携をとり事業所が、出来ること・できないことを見極めチームで取り組んでいる。又家族との連携もしっかり行い納得して頂けるよう支援する。	かかりつけ医と連携して、終末期を過ごし看取りまで、グループホームでできる限りの取り組みを行っている。ターミナルケアを検討している。	グループホームとして職員が共通理解し、ターミナルケアについてのマニュアルを作成することが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で事例を出しあい、実践力を身につけている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市町村主催の災害の訓練やマニュアルを全職員に周知徹底し地域との協力も得て訓練を行っていく。避難場所も一時的に確保でき訓練を実施してる。	昨年2月にスプリンクラーを設置し、防災設備を充実させてきている。また、毎月使用器具の点検を行ったり、さまざまな訓練を行ったりして安全対策を充実させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の御利用者様の尊厳とプライバシーの保護に努め、常に声かけや対応の仕方に細心の注意をはらっている。	1Fの利用者は男性2人、女性7人の構成だが、職員が利用者の個性や特技などを把握し、リーダーの男性を中心に、それぞれが力を発揮できるように言葉かけをしていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に柔軟な対応で接し、御利用者様がどのような事でも表現できる様希望に添いながら、自己決定権を尊重する。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いつも御利用者様の立場に立ち個別ケアを元にゆったりと安定した生活に向け希望に添い支援していく。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人が好む身だしなみやおしゃれができるよう気持ちよく生活できる様、着替えや保清に気をつけ支援していく。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者様が何が食べたいか希望も含め食材から調理、食器の準備を手伝ってもらいながら盛り付けや配膳、下膳等トータル的に役割分担を持って楽しい雰囲気ですべてできるよう支援している。	職員と一緒に食事の下ごしらえをしたり、利用者一人ひとりができる範囲で準備したりして楽しく食事ができた。また、1Fと2Fは別々の献立で、それぞれおいしく食べることができた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の御利用者様の食事量や栄養状態、水分補給の摂取量を把握し食生活の習慣に応じた食生活を支援していく。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔清拭(歯磨き、うがい)口腔内の確認等習慣的に利用者様の力量に応じたケアを行い自分でできない人は職員が介助している。		



グループホーム 幸楽1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の御利用者様の排泄パターンを把握し習慣を把握し定期的にトイレ誘導や便器に腰かけて頂き自己排泄を支援。失禁やパッド使用を減少できるケアを支援。	パッドを蛇腹折りしたりして尿漏れを防ぐなどいろいろ工夫して、利用者一人ひとりに合った支援をきめ細かくしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分補給、食生活のバランスを考え、栄養状態に留意し個々の利用者様に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の御利用者様の入浴パターンを尊重し入浴のニーズを把握し希望に沿って柔軟に対応している。体調の悪い時は清拭や部分浴・足浴等で対応し安全とリラックスできる入浴ケアを行っている。	利用者個々のニーズに応じて、2、3日に1回は入浴できるようにしている。また、体調の悪い利用者には、足湯にしてシャワー浴にするなど、工夫した支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干しは天気の良い日は毎日外に出し、ベッドの環境整理を行い気持ち良い環境空間を提供できる様支援している。布団乾燥機もフルに使用し安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に内服薬及び処方薬の副作用に気をつけ誤飲、誤薬が無いよう呑み込みの確認、症状の変化に努めている。常備薬、投薬前の薬の保管もしっかり管理している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	て有意義で楽しく張り合いのある様、それぞれの御利用者様の力が発揮できる様、出来ることをして頂き強制はしない。いつも気分転換できる様支援し感謝の気持ちを伝えていく。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難な利用者様は車椅子や杖で安全に外出でき、戸外に出て外気にふれあい気分転換している。御家族様の方とも外出できている。	寒い時期になると、散歩や買い物など外出する機会が少なくなっているが、そんな時には戸外で外気に触れたり、室内でレクリエーションや体操をしたりして、また元気に声を出して歌ったりして気分転換を図っている。	

グループホーム 幸楽1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様の方の意思も踏まえながらお金を持っているという安心感を考慮し、事務所で預かりすぐに対応できている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御利用者様は高齢であり又耳も遠い方もいて受話器の操作ができない人もいる。受話器をわたしスタッフがセッティングし御家族様と御利用者様が電話で話す事を支援している。手紙はハガキ等に御利用者様を書いて職員が投函している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は御利用者様にとって懐かしく感じたり、使いやすい物品を選んでおき、思い出が回想できるよう考慮し柔軟に対応している。	1Fの中心にあるホールが利用者の居心地よい空間として工夫されている。利用者は職員と一緒にレクリエーションや体操をしたり、歌ったりして楽しく過ごしていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事務室の前のフロアに装飾台を設置し御利用者様が作った手芸品や花など飾りゆったりした空間でギャラリー的に心を和ませてもらえるよう環境を設定している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具・コンテナ・タンス・収納箱・写真等御利用者様の思い出の物品が持参され、慣れたつかい心地や愛着をもって利用されている。	利用者一人ひとりの居室は、それぞれの持ち物や飾りで使いやすくすっきりと整頓されていた。臭気もなく、清潔に保たれていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者様の日常の生活において混乱や行動の失敗に対して環境面からスポットをあて、身体機能の変化を見逃すことなく現状に応じた環境づくりを行っている。		

## 自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を共有し、業務に関わる事が出来るよう職員会議等で常に共有し意思の統一を図っている。	昨年度の外部評価の結果を受け、地域との関係性を盛り込んだ理念を付け加え、4つ目の柱とし、外国籍の職員を含め全職員が会議を通して共有し、実践につなげようとしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶、声掛け、回覧や広報の伝達、地域でのリサイクル当番、清掃に積極的に参加している。	自治会に加入し、隣組とのつきあいを続けている。また小学校児童との交流や中学校生徒の職場体験受け入れを多くしたり、地域のボランティアとのつながりを多くしたりして、交流を広げようとしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員の地域代表として意見を求めたり、ボランティア、ご家族様を通して理解をしていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議の中で現状報告及び取り組み状況について常に検討し、サービスの向上に活かしている。	2か月に1回、定期的に運営推進会議を開き、市町村の担当者以外に、消防署などの参加を得て、その時その時に合った話し合いを行い、成果を上げている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険認定更新時、各市町村関係事業所と連携し調査及び情報交換により協力関係を築いている。	通常の介護保険更新事務以外で、地域医療や同業者等の情報についても連絡しながら連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束に関する理解について共有し御利用者様が安心して安全に束縛のない生活が出来るよう努め施錠の無いゆったりとした生活に心がけている。	パンフレットに「身体拘束等の排除の理念及び方針」を掲げ、グループホーム全職員で共有し、会議などで研修したりして利用者本位のケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コミュニケーション時の対応で時に言葉の虐待と、誤解されることもある為、職員同士で指摘しあい、防止に努めている。		

グループホーム 幸楽2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員による研修実績はあるが、実践に結びつく事例が無いため、なかなか浸透していない。必要に応じて支援していく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の説明時できるだけわかりやすく内容を説明し、理解していただき本契約時混乱の無いよう、又納得して入所していただくよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との連携を常に密にし、気づいたことを意見していただき、職員間で共有し運営に反映させている。	家族会はまだできていないが、運営推進会議に利用者の家族代表が出席し、話し合いに意見を出していただいている。	利用者調査にも家族の意見や要望が出されているから、いろいろな方法やさまざまな機会を通して、運営に反映できるような仕組みを作ることを望みたい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議及び希望事項について検討し、提案事項については前向きに反映させている。	月1回、職員会議で職員が意見などが出やすいように普段のコミュニケーションを大切にしている。職員は管理者を通じて代表者に伝える仕組みもできている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に代表者との連携を密にし報告・連絡・相談に心がけ又職員の向上心を尊重し質の向上にむけ検討会等のばで日ごろの思いを意見しあっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に新入社員に関し職員同士が協力しあい、トレーニングしている。研修にも積極的に参加し現場で活かされている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な研修の場で他事業所との交流が出来、情報交換できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご利用者の思いに常に耳を傾け共感し、信頼関係を築き安心の確保に努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族様の様々な事情に真剣に耳を傾け、希望を聞き、信頼関係を築きながら安心の確保に努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>現状を把握し、条件を満たしているかどうかの判断を明確にし、状況に合わせて支援している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>常に御利用者様の思いを尊重し常に同じステージでの環境づくりに心がけている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や電話での連携にて情報交換をしご家族様の思いやご利用者の思いを出来る限り尊重できるよう努めている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入所前の情報・面会者との関係やそのときの御利用者様の様子を元に会話や声掛けにも気をつけている。</p>	<p>お盆や正月には自宅に帰ったり、親戚が面会に来たり、家族と一緒に外食したりして、利用者にこれまでの関係が続くよう支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個々に生活のパターンが違いほとんどの御利用者様がホールで過ごし一人になることがすくない中でお互いに会話が弾むことが多い。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も関係事業所をはじめ御家族様への声掛けも密に行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>常に行動を把握し行動パターンを読み取りながら安心して生活が出来るよう支援している。</p>	<p>利用者との普段の生活・会話などや個票・ケア日誌の記録などから、利用者一人ひとりの希望、意向をできるだけ把握し、対応できるよう努めている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時のアセスメントをベースに個々の御利用者様のニーズにあった個別ケアに努め、なじみの環境で生活できるよう努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>職員間で常に連携をし御利用者様のに関する情報交換をみつに行っている。</p>		
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスにてケアのあり方について再認識し、又御家族様の面会時、緊急時の連携でその場に応じた計画作成に努めている</p>	<p>関係者との話し合い通して、個別支援計画を基に日課サービス計画表を作り、きめ細かなケアに取り組んでいる。そして、介護支援経過をまとめたモニタリング実践票によって現状に即した見直しを行っている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録を元にカンファレンスで検討したり職員同士の情報交換により日々の生活の様子を把握している。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>事業所の多機能化は今後の課題ではあるが、ターミナル化については検討してく。</p>		

グループホーム 幸楽2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前向きに検討している。特にボランティアの方々の積極的な活動により一人一人が豊かな生活を送られている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診や緊急時の対応にも常に御家族様との連携を図り、状態確認ができています。	地域の診療所と連携して利用者の受診を支援している。歯科医の受診や、緊急時の受診においても適切な支援を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が特変者や気づきを看護師に伝達し、適切な指示を元に対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に御家族様や医療関係者との連携を密にし、情報交換をしながら、安心して療養できる支援を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御利用者様も高齢化し機能低下による様々な特変も今後避けられないのが現実であるため、常に御家族様との連携の中で施設で出来ること出来ないことを明確にしながらチームケアに取り組んでいる。	かかりつけ医と連携して、終末期を過ぎ看取りまで、グループホームでできる限りの取り組みを行っている。ターミナルケアを検討している。	グループホームとして職員が共通理解し、ターミナルケアについてのマニュアルを作成することが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力の下、様々な訓練や研修を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内訓練を始め、町村主催の訓練にも参加し全職員が災害や火災時の避難に関し認識を深め体制を常に意識している。	昨年2月にスプリンクラーを設置し、防災設備を充実させてきている。また、毎月使用器具の点検を行ったり、特に2Fは非常階段を利用した訓練を行ったりして安全対策を充実させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に意識して対応しているが、時として誤ったとらえ方で相手を傷つけていることもあるため、職員間で徹底して声かけや対応を慎重に行う。	2Fの利用者も男性2人、女性7人の構成だが、職員が利用者の個性や特技などを把握し、それぞれが力を発揮できるように言葉かけをしていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を求めどうしたいのかを一人一人傾聴し、意見を求めている。意思決定できない方に対しては行動で判断している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活動作を個々に観察し、穏やかな生活が送れるよう意識し対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身の回りの物や環境で、その人がその人らしく生活できる様常に視野を広げ、その時々でタイミングを見ながら対応している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はほぼ職員が行うが、一斉に食事を開始し楽しんでいる。又片付けはできることをして頂きながら、一人一人満足感を得ている。	職員と一緒に食事の下ごしらえをしたり、それぞれできる範囲で準備したりして楽しく食事できた。また、2Fと1Fは別々の献立で、それぞれおいしく食べる事ができた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量・状態の確認・水分補給等把握し習慣に基づいた支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはできることをして頂き、必ず職員で状態の確認をして頂いております。		



グループホーム 幸楽2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の御利用者様の排泄パターンを把握し、それぞれの習慣に合わせて自立できる様促している。	パットを蛇腹折りしたりして尿漏れを防ぐなどいろいろ工夫して、利用者一人ひとりに合った支援をきめ細かくしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日課の中での適度な運動や食生活のバランス・適切な水分量に留意しながら、個々の御利用者様のパターンに合わせた支援を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の御利用者様のニーズに合わせ、柔軟に対応し、体調に合わせて臨機応変に対応している。	利用者個々のニーズに応じて、2、3日に1回は入浴できるようにしている。また、体調の悪い利用者には、足湯にしてシャワー浴にするなど、工夫した支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の時間を個々にゆっくと過ごして頂き休息している。又入浴で身体を温めたり、天気の良い日は布団を干したりと寝具の保清に気をつけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に会議等で再確認しながら意識づけしている。又誤薬・誤飲の無いよう呑み込むまでの確認の徹底や症状の変化にも留意している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活に張り合いがあり、又役割を持つことでその人らしい力が引き出せるよう常に一人一人を理解して関わっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に合わせ、職員間で徹底し連携を取りながら、屋外へ出る機会を増やしている。又御家族様の面会時、外食に出かけたりしている。	寒い時期になると、散歩や買い物など外出する機会が少なくなっているが、そんな時には戸外で外気に触れたり、室内でレクリエーションや体操をしたりして、また元気に声を出して歌ったりして気分転換を図っている。	

グループホーム 幸楽2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ全員がお金の管理ができないが、必要に応じて欲しい物に関し、御家族様の承諾を得て購入している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リハビリを兼ねた手紙のやり取りも定着し、以前に比べ文字数が増えた。又時に家族へ電話を求め、職員を通して掛けることもあり安定した生活を送っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器は落ち着きのある物を揃え、又季節に応じて装飾を変えながら四季を通して季節を感じて頂いている。	2Fも中心にあるホールが利用者の居心地よい空間として工夫されている。利用者は職員と一緒にレクリエーションや体操をしたり、歌ったりして楽しく過ごしていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にお気に入りの場所ができ、それぞれが思い思いに過ごしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては、使い慣れた環境での品物を使用して頂き、ADLにあわせて必要の無い物、必要なものを職員間で共有している。	利用者一人ひとりの居室は、それぞれの持ち物や飾りで使いやすくすっきりと整頓されていた。臭気もなく、清潔に保たれていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者様一人一人の生活動作を把握し、その人のできること、出来ないこと、理解できること、出来ないことを認識しながら機能を活かせる環境作りを行っている。		